

## R&A、USGA、PGA ツアー、DP ワールドツアーによる共同声明

過去 8 年間にわたり、R&A と USGA は飛距離の増大とその一貫した傾向に対処できなかった場合の長期的な影響について懸念を提起してきました。

一連の正式なフィードバックプロセス、そして数多くの利害関係者たちとの個別会議を通じて、統括団体は標準総合距離（ODS）を通じてゴルフボールがテストされる方法をゴルフ界全体で変更することに合意しました。

最近になって、ゴルフにおける飛距離の影響に対処するための 2 つの重要な進展がありました：

- 1) 更新された標準総合距離（ODS）のテスト方法の施行日に関連した「告知とコメント」への産業界からのフィードバックでは、大多数が 2 段階の施行日（2028 年と 2030 年）ではなく、単一の日程（2030 年）での施行を支持していることを示していました。
- 2) 統括団体と PGA ツアーリーダーシップ、PGA ツアープレーヤーアドバイザー会議（PAC）、DP ワールドツアーリーダーシップ、そしてその他の利害関係者たちとの間で建設的な議論が行われ、3 つの主要な成果を生み出しました：(a) エリートレベルでの飛距離は引き続き増加していくという認識。(b) 更新された標準総合距離（ODS）のテスト方法では望まれる結果が達成できないかもしれないというツアーからの懸念。(c) ゴルフ市場全体の混乱を最小限に抑えながら、将来の飛距離の増加ペースにより実質的に影響を与えることができる代替方法を再考するという共同の意思。

こうした事態を考慮し、R&A と USGA は可能性のある幅広い選択肢を評価して、今後の対応を決定するために適切な時間をかけることにいたします。特に、統括団体は PGA ツアー、DP ワールドツアー、そして各ツアーの個々のメンバーたちを含めた主要な利害関係者たちと、エリートレベルでの飛距離に大きな影響を与える選択肢を再検討し、テストし、そして施行するために緊密に連携していきます。これらの取り組みは、ショットメイキングの重要性を引き続き強調する一方で、エリートゴルフがあまりに一次元的になりすぎることがないことを確実にします。こうした選択肢が評価されている間、2030 年 1 月まで標準総合距離（ODS）テスト方法が変更されることはありません。

R&A、USGA、PGA ツアー、そして DP ワールドツアーは、今後の進むべき道に確信を持ち、その他の主要な利害関係者たちと共にゴルフの長期的な健全性を担保するために協力的に取り組むことを約束しています。